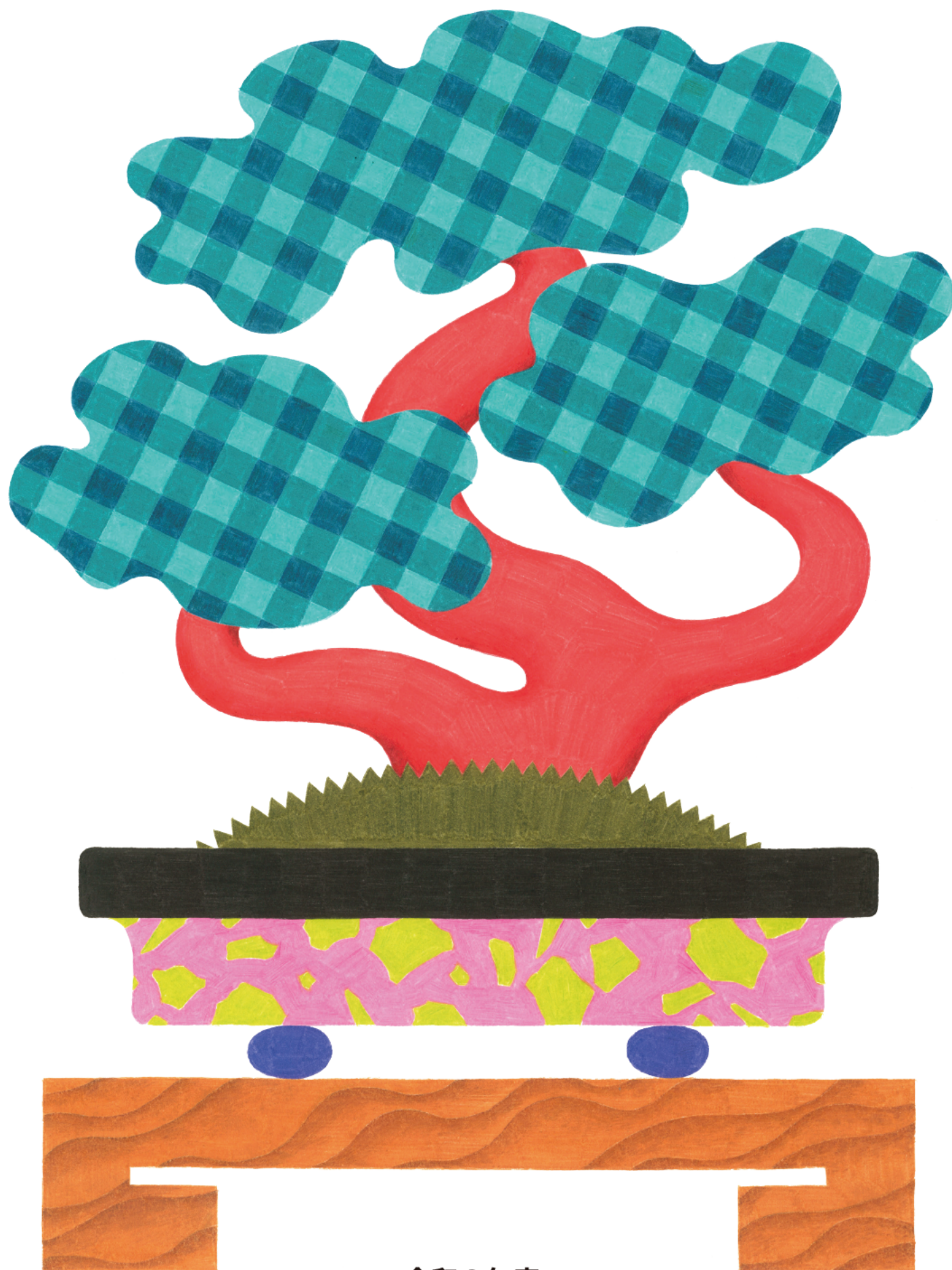




令和8年度

東京藝術大学美術学部デザイン科 入試説明会のしおり

TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS FACULTY OF FINE ARTS / DEPARTMENT OF DESIGN

東京藝術大学 デザイン科の教育理念

| Educational Philosophy

世界は激しく変わりつづけています。
いまデザインには
様々な力が必要とされています。

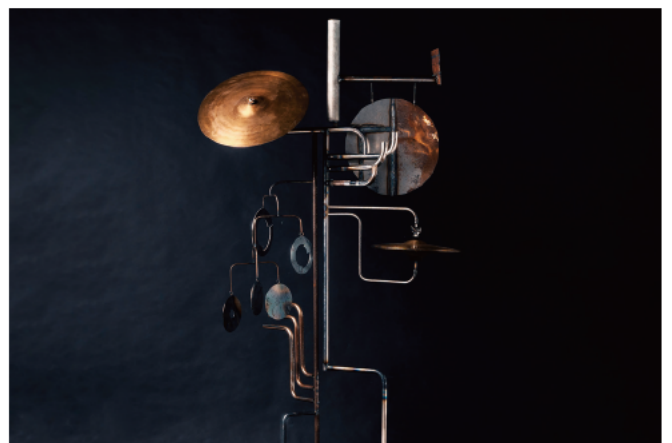
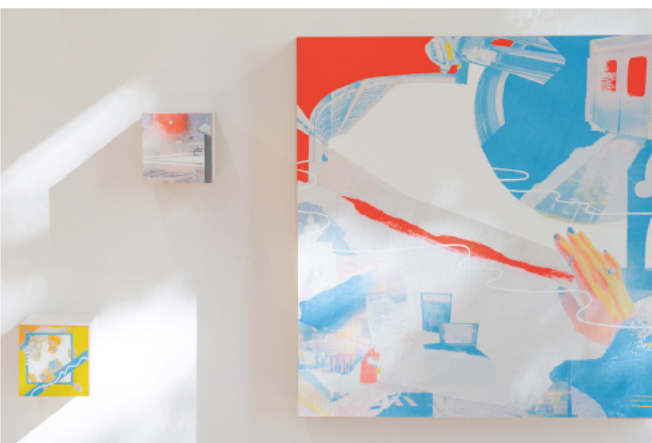
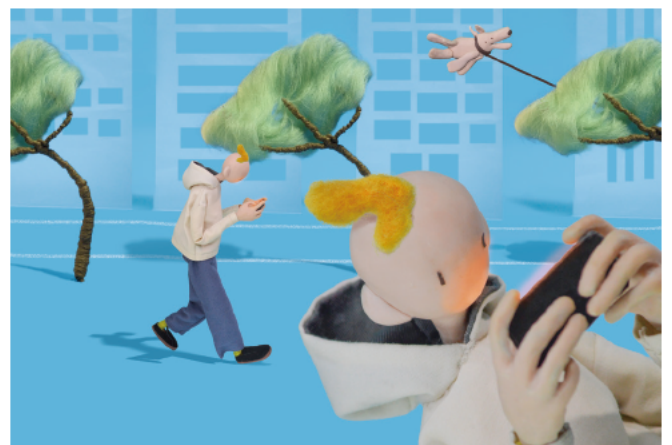
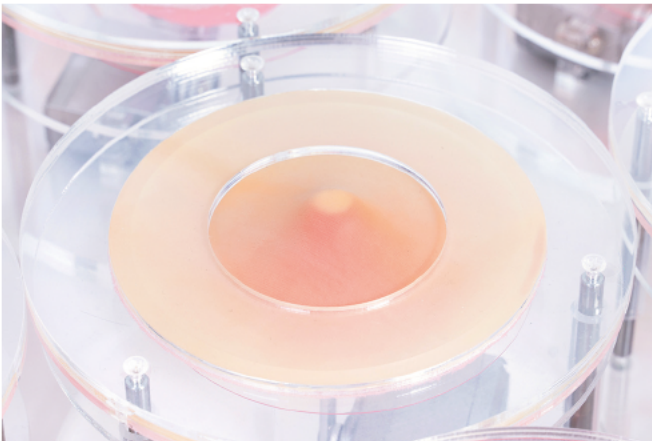
未来の変化を先取りして
人の暮らしに革新をもたらす
新しい時代を切り拓く力。
守るべき価値を見定めて
伝統を次の世代へ継承する力。
人を思いやり、声なき声に耳を傾ける力。
人間や自然の営みをつぶさに観察し
複雑な事象を整理することで
変化のなかに潜む見えざる文脈を抽出し
本質を読みとる力。
そして、その洞察をかたちにする造形力。

本学デザイン科は、こうした力を
様々な専門領域をもつ10の研究室が
基盤となった教育・研究体制で育みます。
しなやかな感性、論理的思考
多視点の発想、幅広い教養によって
時代の変化に立ち向かう人材を育成します。

研究室・指導教員（2025年度）

第1研究室	来年度新教員就任予定	
第2研究室	Design Alternative	箭内道彦 教授
第3研究室	Time & Space	鈴木太郎 教授
第4研究室	Visual Communication	松下計 教授
第5研究室	Design Embrace	丸山素直 准教授
第6研究室	Design Prototyping	長濱雅彦 教授
第7研究室	Design Experience	山崎宣由 教授
第8研究室	Draw	押元一敏 教授
第9研究室	Design Embody	橋本和幸 教授
第10研究室	Design Critical	藤崎圭一郎 教授





4年生卒業制作作品
(令和6年度)より

デザイン科が求める学生像

Admission Policy

つくる力を求めます。私たちの考えるつくる力とは、観察する力・考える力・伝える力を含みます。それは、物事を観察し、全体を俯瞰し、構造を読み取る力。課題を自らの手で見つけ出し、しなやかな感性と自由な発想で自分の答えを見つける力。そして細部にこだわり、美的なかたちにまとめあげ、社会に展開できる力です。

デザイン科・専攻は、つくる力を磨く努力をいとわず、つくる力で世界を揺り動かそうとする強い意志をもつ学生の入学を期待しています。



1年生実技課題提出作品
(令和6年度「マテリアルズ」「調べる」)より

東京藝術大学デザイン科の特徴

Features

東京藝術大学の前身である東京美術学校は、1887（明治20）年に創立しました。本学におけるデザイン教育は、1896（明治29）年図案科の開設までさかのぼり、デザインが産業工芸や商業美術などといわれた戦前から、多様なデザイン領域が確立する戦後から現在まで、デザインの歴史を第一線で築いた優れた人材を多く輩出してきました。

本学デザイン科は、グラフィックデザイン、プロダク

トデザイン、空間デザイン、コミュニティデザイン、映像、描画、などの様々な専門領域のもつ教員が指導する10の研究室を基盤に構成されています。1学年45名程度で、対話を重視したきめの細かい少人数教育を行っています。学生は、学年進行にしたがって、ゆるやかなかたちで自分の適性を見定め、じっくりと「やりたいこと」を探し出せる、他には類を見ないカリキュラムのもとで学ぶことができます。

Year 1

デザインの基礎力を養います。デジタル基礎と塑像の基礎実技に始まり、「調べること」「機能性を考えること」「観察すること」「素材の可能性を追求すること」への視野を広げる実技課題をこなすことで、創造活動の「足腰」を鍛えあげます。



Year 2

発想力と表現力を問う様々な分野の5つの実技課題が課せられます。併せて選択制の技法演習やデザインの意味を考える講義を通して、学生は自分の適性と「やりたいこと」を徐々に見つけだすことのできるカリキュラムとなっています。



Year 3

現代の社会問題や未来の生活提案力を問う実技課題で、構想力・問題提起力・問題解決力・伝達力を養います。進路を具体的に絞りこんでいけるように、専門性の高い選択授業も用意されています。必修の「古美術研究旅行」では、京都と奈良を10日間訪れます。



Year 4

自分でテーマを決めて1年間かけて卒業制作に取り組みます。指導は10研究室の教員全員にあたります。学生4、5人を1人の教員が担当しますが、必要に応じて学生がどの研究室を訪ねてもよい、風通しのよい仕組みとなっています。



デザイン科の入試について

Entrance Examinations

東京藝術大学美術学部デザイン科の入試選抜は、大学入試共通テスト、本学が実施する実技検査、出身学校長から提出された調査書の各資料を総合して判定します。

実技検査は一次選抜として「鉛筆写生（石膏像デッサンまたは構成デッサンのどちらかを選択）」を行い、一次選抜合格者のみが、二次選抜「デザインⅠ（色彩）」、「デザインⅡ（形体）」を受験し、合格者を決定します。

詳細については『2026年度入学者選抜要項』をお読みください。

一次試験 鉛筆写生（石膏像デッサン）

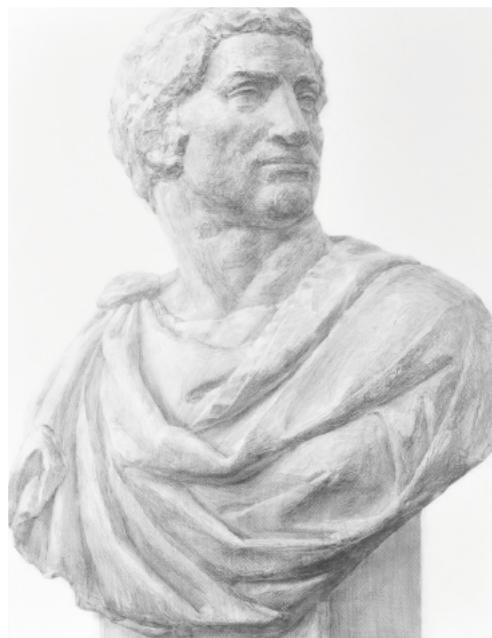
令和7年度

【問題】

台上に置かれた石膏像（ブルータス）を与えられた画用ボードに鉛筆デッサンしなさい。

【条件】

- ・画用ボードは縦位置とする



一次試験 鉛筆写生（構成デッサン）

令和7年度

【問題】

与えられたモチーフ（折りたたみ椅子、リンゴ、タオル）を自由に構成して、下記の条件に従って、与えられた画用ボードに鉛筆デッサンしなさい。

【条件】

- ・ 画用ボードは縦位置とする
- ・ モチーフのうち1つは床に接しているように描写すること
- ・ 与えられたモチーフは画面内に各1点以上、描写すること
- ・ モチーフは加工しないこと



二次試験 デザインⅠ（色彩）

令和7年度

【問題】

- ①フレッシュな果実、②精密なガラス製品、
- ③豊かな水資源 これらが魅力の村がある。
- ①～③を要素に、この村をアピールすることを目的とした美しい「色彩構成」をきなさい。

【条件】

- ・ ①～③の要素は必ず入れること
- ・ ①は「ライム」（扱いは自由） ②は「メスシリンダー」とする
- ・ イラストボード（B3サイズ）は縦位置で使用する
- ・ アイデアスケッチは配布された草案用紙（B4サイズ）を使用すること



二次試験 デザインⅡ（形体）

令和7年度

【問題】

配布された食パンと、それと異なる質感を持つ別の物質（物体）を想定し、その2つを組み合わせ、両者が何らかの関係を持ちながら互いの質感を表現する作品を、与えられた粘土を使用して制作しなさい。

また、作品には、異なる質感や特徴を表現する2つの擬音を「と」で繋いだタイトルをつけ提出すること。

（例：ふわふわとかちかち）

【条件】

- ・食パンは加工することはできるが、作品には直接使用しないこと
- ・立体は与えられた粘土のみを使用し、容量内で制作すること
- ・高さは30cm以内とし、粘土板からはみ出さないこと
- ・自立すること
- ・粘土べらは加工しないこと
- ・作品の中に芯を入れないこと
- ・タイトルは試験時間内に記入すること。試験終了後に「タイトル記入用紙」を粘土板に貼る作業があるので、指示に従うこと



ふにやりとすっぱり



ふわふわとチクチク



ふわふわとぐるぐる



びしょびしょとバサバサ



サクサクとトロトロ



ふわふわとかちかち

Q&A

1. 学部入試について

Q 「石膏像デッサン」と「構成デッサン」のどちらを選択すれば良いのですか？

A どちらが良いということはありません。また評価においても公平性を保ち、優劣の差はありません。基礎描写力を前提としながらもそれぞれの観点が異なります。自分の得意とする方を選んでください。

Q デザイン科の試験にデッサンを課するのは何故ですか？

A デッサン (dessin) が語源的にデザインに近いといわれていることでも分かるように、3次元モチーフを2次元の1枚の画面に収めていくデッサンの技量は、マクロの視点から全体のコンポジションを考える洞察力と構成力、事物を客観的に見る観察力、細部にこだわる表現力、現場で起こる様々な制約を積極的に受け入れる適応力、完成までの計画性とそのプロセスなど、デザインの要に大きく繋がるためです。

Q 違反道具を使っている場合、どう対処されるのですか？

A 監督者からの警告を受け、その後も無視して使い続けた場合、退場となります。その他の違反行為についても試験開始前に監督からの注意事項がありますので必ずよく聞いて従ってください。

Q 試験室ごとに石膏像の汚れが違うことについてどう考えているのでしょうか？

A 石膏像に限らずモチーフの状態については、監督者が全試験室を見回って公平に実施できるよう確認しています。公平性を損なうと考えられるモチーフは交換を行い対処しております。

Q 実技の使用道具の基準があいまいだと思うのですが？

A 平成25年度入試より、一次の鉛筆写生の使用道具を、「鉛筆写生に必要な用具一式」とし使用道具の基準を広げることで、使用を注意される基準が試験室・監督者によって違うといった懸念に対処し、より公平・公正な試験を実現できるように配慮しました。今後も基準の徹底を図っていきます。

Q 障害のある入学志願者に対して特別措置はありますか？

A 事前相談の制度があります。詳細は『入学者選抜要項』を参照してください。事前相談は、直前では対応できないことがありますので、日数の余裕をもってご相談ください。

Q 大学入試共通テストの結果はどのくらい比重がありますか？

A 採点に関することは一切公表できません。

Q なぜ、デザイン科の大学入学共通テストの必修科目に「情報」という教科が加わったのですか？

A 「情報」という教科は、情報と情報技術を活用した問題発見と解決および価値創造のための能力と知識を養うことを大きな目的としています。問題発見・解決および価値創造の能力は、デザインにおいても非常に大切な素養であり、デザインを学ぶ基礎として「情報」を学んでおいてほしいと考えたからです。

※大学入試共通テストの科目についての詳細は、本学美術学部の入学者選抜要項をご覧ください。

2. 大学生活について

大学生活は課題制作や実習、講義などによって構成されています。カリキュラム外にも藝祭、部活動、産学官連携事業、国際交流プロジェクトなど多彩です。これらの企画は学生各々の選択によって自由に参加できます。大学や科はそれらの活動を支援する仕組みや制度を設けています。

Q 専攻（グラフィックデザインやプロダクトデザインなど）に分かれますか？

A 分かれません。ただし学年が進むにつれ、緩やかに専門性を追求できるカリキュラムとなっています。総合的な視野をもったクリエイターを育成するために、最初から既存のデザイン領域に学生を縛らず、自分の力で適性を見つける指導を行っています。大学院では、学生は専門領域が違う10の研究室に属し、それぞれの独自の研究・創作活動を行います。

Q 他大学にはない藝大デザイン科の特長は？

A 1学年45人の少人数教育。教員と学生との距離の近さ。プロダクトデザイン、空間デザイン、コミュニティデザイン、グラフィックデザイン、描画、映像など、さまざまな表現領域を学びながら進路が決められるカリキュラムの幅の広さを持っています。音楽学部や、他の美術領域の学科のそれぞれ才能あふれた学生との横の繋がりが生む創作環境も特徴です。

Q 授業料免除・入学料免除の制度があると聞きましたが、どのようなものですか？

A 本学には、経済的な理由、または学資負担者が1年前に死亡・被災したことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し、選考のうえ、授業料の全額または半額を免除する制度があります。入学料に関しても同様に、全額または半額を免除する制度があります。逼迫した経済状態の者に対して選考のうえ、入学料や授業料の徴収を猶予する制度、奨学金も各種あります。また、令和7年度より支援の拡充が行われ、世帯年収に関わらず、多子世帯の学生は授業料等が無償化となりました。

詳しくは東京藝術大学ウェブサイト (www.geidai.ac.jp) 内の「学生生活」の欄をご覧ください。

● 学生の声

私の家は母子家庭です。現在アルバイトをしています。授業料免除を受けることにより、学業を第一に考えられる環境にいます。

Q どんな工房が使えますか？

A デザイン科には、各学年の学生が課題などの制作を行うためのアトリエがあります。その他に立体工房、平面映像工房があり、それぞれの工房に専門の講師が常駐し、機材の使い方や制作のアドバイスを行います。立体工房にはレーザーカッターや3Dプリンター、平面映像工房には大判プリンターや撮影スタジオが備わっています。また、取手校地には、全科で利用できる共通工房があり、広いアトリエもあるため、より大きな作品を制作することができます。本学全学生が利用できる芸術情報センター（AMC）もあります。（amc.geidai.ac.jp）

● 学生の声

立体工房と平面映像工房の二つの工房があります。どちらもテクニカルインストラクターが常駐しており、様々な設備や機械を使用できるのはもちろん、具体的な制作相談も出来るので、沢山利用しています。

Q 学生寮はありますか？

A はい。大学から電車で約20分の足立区東和に学生寮「藝心寮」があります。東京藝術大学ウェブサイト（www.geidai.ac.jp）内の「学生生活」→「福利厚生・生活サポート」→「学生寮『藝心寮』」の欄をご覧ください。

● 学生の声

藝心寮は周辺の環境含めとても生活しやすく、セキュリティ面についても安心でき、自身の制作に集中できます。

また共有スペースでは他科の人とも交流できるので楽しいです。

Q 入学後に留学を考えていますが、可能ですか？

A 可能です。現在の留学制度の詳細は東京藝術大学ウェブサイト（www.geidai.ac.jp）内の「学生生活」→「国際交流・留学」→「藝大からの留学」の欄をご覧ください。

● 学生の声

留学など自分のやりたい事を選択でき環境が用意されており、その上で自由な時間に自分の制作をすることが、藝大での学生生活の充実化につながりました。

卒業後について

デザイン科卒業生の進路は、大学院への進学・就職・フリーランス活動など様々です。就職においては、多くの魅力ある企業からの採用があり、大手企業に就職する人もいます。また、教員や研究者になる人もいます。フリーランス活動としては、デザイナーのみならずアーティストやクリエイターとして独立するなど、多様な進路があります。

●主な就職企業リスト2017年～（大学院も含む）

IMJ	クリエイティブノルム	Takram	バンダイナムコスタジオ
AOI Pro.	隈研吾建築都市設計事務所	竹中工務店	バンダイナムコフィルムワークス
アクア	ケنز	丹青社	フィールドフォー・デザインオフィス
アクセンチュア	講談社	TANGE FILMS	びえろ
アッシュコンセプト	国立印刷局	チームラボ	日立製作所
アプシィ	コクヨ	DeNA	富士フイルム
いすゞ自動車	コズフィッシュ	DNP生活空間	ヘルメス
イトーキ	ゴッドキッズ	DODO Design	ポーラ
一丸堂印刷所	コニカミノルタ	TBSテレビ	ほぼ日刊イトイ新聞
イリア	コロプラ	TSDO	本田技術研究所
U-NEXT HOLDINGS	Cygames	テレビ朝日	ミキハウス
WOIL	サイバーエージェント	電通	三井デザインテック
エース	サンエックス	TOTO	三菱重工業
エイトブランディングデザイン	サンゲツ	東北新社	三菱電機
NHK	GKグラフィックス	東洋製罐	MORIE
NHKアート	GK設計	凸版印刷	ヤフー
NHKエデュケーショナル	資生堂	日産	YAMAHA
NECソリューションイノベータ	JT	日本アニメーション	UDS
エポック社	スクウェア・エニックス	日本IBM	ユー・アイズ・デザイン
OAR DESIGN	スローガン	日本デザインセンター	吉田カバン
オカムラ	セガ	任天堂	吉徳
岡安泉照明設計事務所	船場	乃村工藝社	Yom
オリエンタルランド	ソニー・インタラクティブエンタテインメント	ノムラデュオ	ライティングプランナーアソシエーツ
鹿島建設	ソニー・エンターテインメント	博報堂	ランドスケープデザイン
カプコン	ソニー・ミュージックソリューションズ	BuzzFeed Japan	陸上自衛隊
河淳	ソニー	パナソニック	LIXIL
環境デザイン研究所	大日本印刷	ハル研究所	リクルート
銀鳥産業	たき工房	バンダイ	ロボット

I. 藝大デザイン科に入って良かったこと

II. 受験生へのアドバイス

● 荒木 美濃 1年生

I. 授業がおもしろいこと！チャンスが次々とやってくること！周りのレベルが高いこと！とにかく毎日楽しいことです。意識の高いクラスメイトが多く、出てくる作品もセンスが光るものばかりでモチベーション高く毎日過ごせてます。

II. 受験を通して培える力は大きいので、こういう成長出来るチャンスを逃さずモノにしてほしいです。心は熱く頭は冷静に！自分の譲れないこだわりとか、好きなことの魅力を客観的に見て伝えるようにすると思います。

● 清水 甫 1年生

I. 自分の物事の見え方、考え方が変わっていくことです。それが多様な方向に興味を持つ仲間たちとの関わりは、自分の視野を大きく広げてくれます。また、行く先々にある学びや発見は、自分の考え方や世界の捉え方をより一層に深めてくれます。

II. 自分の気持ちに素直でいてください。評価や言われてきたことは、いつもあなたに付きまとうかもしれません。でも、本当に考えるべきことは意外とシンプルです。自分の世界観と視点を大切に。これが自分だ！という気持ちを持ち続けてください。応援しています。

● 松田 琉杏 1年生

I. 授業だけに限らず、大学生活のあらゆる場面で良い刺激を受けていることです。クラスメイトのそれぞれ得意なことや好きなこと、やりたいことが様々であるため、自分の興味の幅が広がったと感じています。

II. 自分がどんな大学生活を過ごしたいのかを考えながら過ごすといいと思います。自分の得意な事を研究し、やりたいことを具体的に想像しておくことで入学後の大学生活がより豊かになると思います。

● 吉岡 青唯 1年生

I. 日々、いろんな価値観や考え方に触れられるのがとても面白いです。同じ「デザイン」を学んでいても興味の対象や表現方法は本当に多種多様で、それぞれが自分らしく制作している姿に刺激を受けています。作品について真剣に語り合える友人ができたのも嬉しいことのひとつです。

II. 「自分は何が好きなんだろう？」と立ち止まって考えることを大切にしてほしいです。うまく描けない時も、評価が思うようにいかない時も、自分の「好き」や「面白いと思う気持ち」を信じて続けていくことが大事だと思います。藝大は、そうした気持ちを持ち続けてきた人たちが集まる場所です。応援しています！

● 霧見 歩 2年生

I. 周りの人達は自分には持っていないものを持っているので、新たな発見があり、表現や視点の幅が広がることです。

II. 入試の制作において最大の敵は「迷い」だと思います。その迷いは作品に表れ、完成度を下げてしまいます。日々の経験を積み重ねて自信をつけ、本番では迷いを最小限に抑え、強い意志を持って挑んでください。応援しています。

● 福島 奈緒子 2年生

I. 教授からだけでなく、クラスメイトからも日々刺激を受け続けていることです。また様々な工房が1年次から使用でき、実践的な制作を行うことができることも良かった点です。

II. 受験で培った観察力や思考の積み重ねが全て、入学後の制作に活かしていることを身をもって実感しています。ひとつひとつの課題に丁寧に向き合ってください。

● 木ノ内 悠介 3年生

I. 他学科との距離が近く、制作の幅を広げられた点です。私はあまり活発的な方ではありませんが、制作意欲の高い同期と空間を共有することで、たくさんの活力をもらえています。ありがとうございます。

II. 自分自身に対して意識的に、興味をもってあげることが大事だと思っています。何が好きでどう感じるのか、とにかく様々な出来事を自身に体験させてあげてください。

● 山田 さくら 3年生

I. 人生で1番努力をして出会えた仲間は、生み出すことに真剣で、毎日をほがらかに生きる、私の大好きな人たちです。

自分が自分らしくいられる居場所ができたことが、デザイン科に入った1番の幸せだと思っています。

II. 自分の作品に自惚れず、淡々と。そして、つくる喜びにひたむきでいられる仲間をずっとずっと大切にしてください。

● 那須 響 4年生

I. 悩んでいても大学に行けば、先生や友人の言葉に自然と触れられて、気づけば少しずつ考えが整理できます。そうやって自分と向き合えるのが、大学の良さだと思います。

II. 受験を通して身につけた「悩む力」と「決める力」は、大学生活の中で何度も支えになっています。1つ1つの答えと丁寧に向き合う姿勢は、きっとこれからも力になります。

● 山下 瑚桃 4年生

I. 一年からグラフィック、プロダクトといった専攻分野を決めずに自分の興味関心を軸にデザインを学べることです。アトリエでは自分と異なる軸で作品制作している同級生からたくさんの刺激をもらっています。

II. 自分が描いていて一番好きなものを知っておくといいと思います。色が好き、キラキラしたものが好き、形が好きなんでもいいです。その好きはこだわりになって、魅力になります。全画面で自分に好きを伝えるつもりで頑張ってください！

発行 : 東京藝術大学美術学部デザイン科
デザイン: 杉山あるく
表紙 : 村上生太郎
発行日 : 令和7年6月